富士のあるまち

おやま



町制施行110周年記念

小山町町勢要覧 2022

富士のあるまち おやま　町制施行110周年記念　小山町町勢要覧 2022

110 anniversary

小山町制110周年

小山町民憲章

わたくしたちは、富士のもと
水と緑にめぐまれていることに誇りをもち、
金太郎のように、健康で、明るい、
ゆたかな町づくりをすすめます。

一、めぐまれた自然を愛し、美しい
　まちをつくります。
一、きまりを守り、安全で、住みよい
　まちをつくります。
一、のびゆく力を育て、文化の薫り高い
　まちをつくります。
一、働くことによろこびをもち、健康な
　まちをつくります。
一、たがいに助け合い、親切で、あたたかい
　まちをつくります。

昭和五十七年十二月五日制定

小山町　町勢要覧
町制施行110周年記念誌

目　次

小山町長メッセージ …… 02

● 富士のあるまち
　特集　富士山 〜世界遺産〜 …… 04

● 活力あふれるまち
　3つの未来が生み出す新しいまちづくり …… 06
　賑わいのあるまちづくり …… 10
　豊かな自然環境を生かした新しい農林業の振興 …… 12
　豊かな暮らしを実現する新たな住宅地 …… 13

● 健康で笑顔あふれるまち
　子どもたちが元気に育つまち …… 14
　地域共生社会の実現 …… 18
　健康づくり …… 20

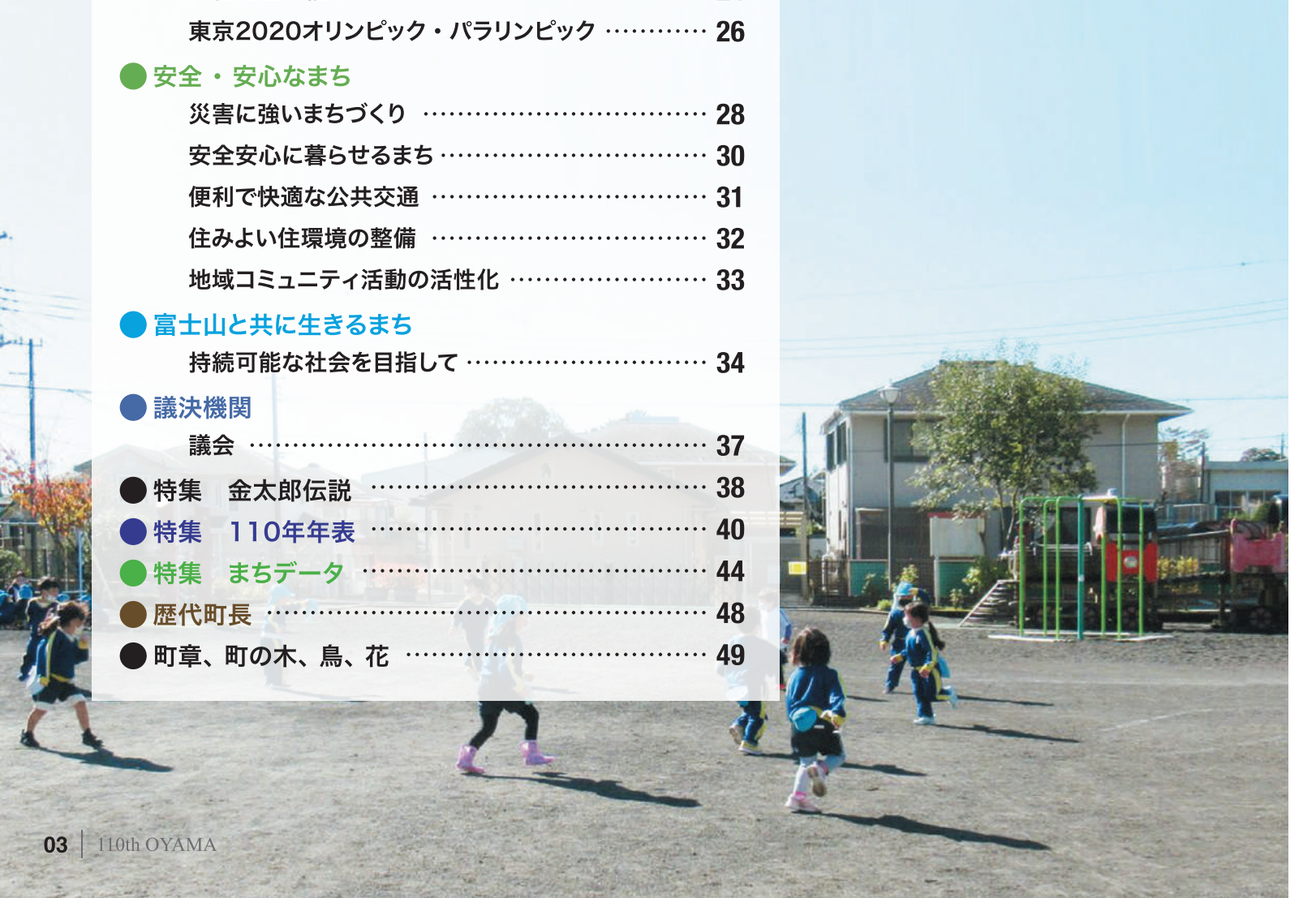
● 文化の薫るまち
　生きる力を育む …… 22
　文化遺産の継承 …… 24
　東京2020オリンピック・パラリンピック …… 26

● 安全・安心なまち
　災害に強いまちづくり …… 28
　安全安心に暮らせるまち …… 30
　便利で快適な公共交通 …… 31
　住みよい住環境の整備 …… 32
　地域コミュニティ活動の活性化 …… 33

● 富士山と共に生きるまち
　持続可能な社会を目指して …… 34

● 議決機関
　議会 …… 37

● 特集　金太郎伝説 …… 38
● 特集　110年年表 …… 40
● 特集　まちデータ …… 44
● 歴代町長 …… 48
● 町章、町の木、鳥、花 …… 49





小山町制110周年に寄せて

小山町が大正元年（1912年）8月1日に町制を施行して以来、記念すべき110周年という節目を町民のみなさまと共に迎えることができましたことは、大変喜ばしく感無量の思いであります。

顧みますと、明治22年、東海道本線の駅として、六合村に「小山駅」が開業され、明治29年には富士紡績が操業を開始し、小山町は富士紡績と共に繁栄してまいりました。そして、大正元年8月1日の町制施行後、昭和30年に足柄村、翌31年に北郷村、須走村と合併し、現在の小山町が誕生いたしました。

大正、昭和、平成、令和という長い歴史の中で、度重なる自然災害など、幾多の困難に直面しながらも、克服し、町勢を発展させてこられたのは、多くの先人が培われてきた英知とたゆみない努力の賜物であると認識しており、心から敬意を表する次第です。

近年、社会情勢が大きく転換する時代にあり、柔軟な対応や、迅速な改革などが町政に求められている中、町政を進める上の指針となる最も重要な計画“第５次小山町総合計画”では、目指すべき将来像を、策定に関わった多くの町民のみなさまの意見を集約して「育てたい、暮らしたい、帰りたいまち　小山町」と定めました。

この将来像からは、町民のみなさまの新たなまちづくりへの想いや期待が感じられ、この想いはしっかりと継承し、そして未来へと繋げていかなければなりません。

このような町民のみなさまの想いと真摯に向き合い、町民・議会・行政が一体となって町民幸福度を向上させ、満足度の高い魅力あるまちづくりを推進していく必要があります。

これからも、“町民が主役”“町民が主体”の希望あふれるまち「住民幸福度日本一の町」の実現に向けて、町民のみなさまと共に歩んでいけるよう努めてまいります。

この町勢要覧は、町制施行110周年の記念誌として、小山町の過去・現在をお伝えし、未来へとつなげていくために作成いたしました。

この要覧が未来へ飛躍する小山町の魅力を御理解いただく一助になれば幸いです。

小山町長　池谷　晴一

特集

富士山



世界遺産

日本一の高さ（標高3776m）を持つ富士山は、2013年6月に**富士山 ―信仰の対象と芸術の源泉―**の名称のもと**世界文化遺産**に登録されました。その背景には、富士山が「信仰の対象」であるとともに「芸術の源泉」として、日本人の自然観や日本文化に大きな影響を与えてきた歴史があります。小山町内では、**須走口登山道**、**富士浅間神社（須走浅間神社）**が構成資産として登録されました。

須走口登山道

富士浅間神社を起点として、8合目で吉田口登山道と合流し、山頂東側に至る須走口登山道の歴史は古く、江戸時代には特に多くの登山者で賑わいました。他の登山口に比べて植生が豊かで、緑に恵まれた登山道の傍らでは季節の花々や野鳥たちが登山者を楽しませてくれます。



富士浅間神社（須走浅間神社）

延暦21（802）年、富士山東側が噴火した際、須走に斎場を設け、鎮火祭を斎行したところ、同年4月初申の日に噴火が収まりました。大同2（807）年に祭事の跡地に神をお祀りしたことが神社の創建と伝えられます。以降、富士講信者が多く立ち寄り、登拝記念碑が約70基残されています。



SDGs

3つの未来が生み出す新しいまちづくり

小山町は地域産業の活性化や自然と調和した多彩なライフスタイルと魅力ある地域づくりなどを目指して県が進める、〝ふじのくに〟のフロンティアを拓く取組へいち早く参画しました。

湯船原地区、小山PA周辺地区、足柄SA周辺地区の3拠点を中心に「三来拠点事業」として具現化し、企業誘致や交通アクセスの充実など、さまざまな事業を推進することで雇用や賑わいの創出、新たな住まい空間の創出などを図り、定住人口の拡大と地域活性化を目指します。



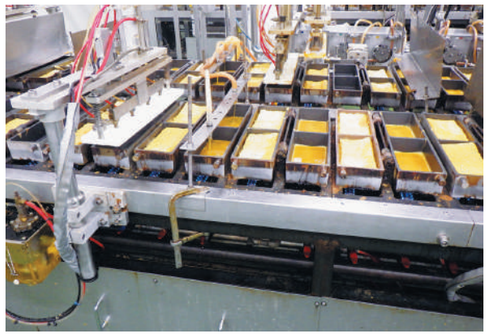
湯船原全体構想

続々と企業が進出

静岡県企業局が「富士山を借景にした森林に佇む工業団地」をコンセプトとして整備した「富士山麓フロンティアパーク小山」は、2021年に全10区画が完売し、次々と企業が操業を開始しています。

また、隣接する町が整備した「新産業集積エリア」でも全5区画中、3区画に企業進出が図られ、工場が次々と建設され、多くの雇用が創出されています。

湯船原地区の「アグリインダストリーエリア」では、次世代施設園芸拠点の施設整備工事が進められ、数年後には国内最大級の施設園芸団地が誕生します。また、湯船原地区第3の工業団地である「上野工業団地」は2023年度の分譲開始を目指して事業が進められており、国道246号からのアクセス道路も整備され、交通利便性が向上します。


玉子焼き製造工場【クレフォート東日本㈱】

富士山麓フロンティアパーク小山では、食料品製造業（玉子焼き・豆腐・医療機関や福祉施設向けの給食受託）・化学薬品の製造販売・化粧品・金属製品製造業・管理医療機器製造業・倉庫業などさまざまな業種の企業が進出し、産業振興や雇用の創出、定住・観光交流人口の拡大を図っています。


ペットボトル再生工場【㈱アドベル】

新しいものを生み出す挑戦

新産業集積エリアには、未利用材や廃棄木材をリサイクルしたチップからパーティクルボードを生産する事業所が進出しています。最先端の技術で木材を有効活用することで地球温暖化の抑制にもつながり、持続可能な社会を作る一助になっています。

また、日本最大級となるサーモン陸上養殖施設が一部操業開始しています。海での養殖は環境への負荷が大きくなりますが、内陸の大型水槽で水を循環利用しながら海の魚を育てることで、外部環境への影響が軽減されます。安定した供給ができ、小山町の新しい名産として期待されます。


パーティクルボード製造工場【ENボード㈱】


サーモン養殖施設【Proximar㈱】

SDGs


㈱サンファーム富士小山・㈱サンファーム令和

アグリインダストリー 新しい農業の形

町のアグリインダストリーエリアでは再生可能な地域資源とICTを活用した次世代農業の拠点として整備が進められています。現在は高糖度のトマトの栽培が進められています。今後更にリーフレタスの生産に向けた整備が進められ、安定的な農産物の生産体制が確立することで、高品質の農作物を全国にお届けします。

食を支える工業団地

食品加工生産エリアとなる「富士山麓フロンティアパーク小山」では、大消費地である首都圏へのアクセスの優位性や豊かな自然環境がアピールポイントとなっています。食料品製造などの企業が進出、操業しており、地域の雇用創出にもつながっています。


高糖度トマト

足柄SA周辺地区

東名高速道路足柄SA下り線側の足柄スマートICから、主要幹線道路である県道御殿場大井線に接続する全長1.1㎞の町道整備が進められています。東名高速道路へのアクセス強化による関係人口の増加が期待され、地域活性化に大きく貢献します。

東名足柄スマートIC周辺で予定されている民間開発事業の複合観光施設では、県内の海の幸、山の幸を集め販売を行う産直市場、富士山を眺める温泉、ハイエンドブランドのホテルの建設が計画されています。

また、平成30年12月には、ビジネスホテルとシティホテルのセンターラインに位置する新感覚のホテルがオープンし、交流人口の拡大と地元雇用を創出、町と「災害時における宿泊施設などの提供に関する協定」を締結しています。



ホテルジャストワン富士小山

モータースポーツをテーマにした空間に

新東名高速道路に設置される(仮称)小山パーキングエリアの周辺は、世界に名だたるサーキットである富士スピードウェイに隣接しています。ここに自動車・モータースポーツ関連産業や観光施設を集積し、観光資源を活かしながら交流人口の拡大と雇用の創出による地域活性化を進めます。モータースポーツの聖地として整備される姿は世界からも注目され、スマートICも設置されることで、町の新しい玄関口にもなります。







富士モータースポーツミュージアム

富士スピードウェイの隣接地にモータースポーツとホスピタリティーの融合をコンセプトにしたラグジュアリーホテルが令和4年10月にオープンしました。ホテル内にはモータースポーツミュージアムが同居していることが特徴で、滞在を通じてモータースポーツの魅力を肌で感じることができます。


富士スピードウェイホテル

足柄SAから直結 観光交流の拠点に

平成31年3月に東名足柄スマートICが開通し、交通の利便性が飛躍的に向上した足柄サービスエリア周辺地区は、首都圏からも人気の高い地域です。富士山を望む豊かな自然環境に加えて、観光関連施設が整備されることで、さらなる交流人口の拡大が期待されます。


東名足柄スマートIC

SDGs

賑わいのあるまちづくり

商店街は「暮らしの広場」「地域の顔」であり、重要な生活インフラです。賑わいのあるまちづくりの視点に立ち、地域コミュニティと一体となった魅力ある商店街の活性化に努めています。消費者のニーズ、ライフスタイルの変化などに対応した柔軟な発想で商工業の持続的発展を支援します。お店の魅力の発見や、付加価値を高めた商品の開発などを支援し、交流拠点やふるさと納税を活用しての情報発信や販売活動を推進しています。

2つの道の駅

道の駅「ふじおやま」は、国道246号唯一の道の駅として平成16年に開駅して以来、富士山を一望でき、田園風景と清澄な空気と水を満喫できる空間が多くの皆さんに親しまれています。平成29年に大きくリニューアルし、翌年にはレストランも拡張しました。地元の食材をふんだんに使ったメニューは大人気です。また新鮮な農産物を求めて町外から多くの人が訪れます。

道の駅「すばしり」は、富士山に一番近い道の駅として平成23年に開駅しました。須走口5合目に至るふじあざみラインに直結し、富士登山や富士山観光の拠点として賑わっています。


道の駅ふじおやま


レストラン



賑わい拠点の整備

人口減少による需要の縮小と商店街の衰退は、小山町だけでなく全国的な課題です。大型店の展開やネット通販の普及などにより、買い物を支えるインフラとしてだけではなく、地域コミュニティのふれあいや交流の場として期待が高まっています。

空き店舗を利用し、地域の賑わいを取り戻すイベントも行い、商店街の持続的発展を支援しています。



空き店舗でのイベント




足湯



道の駅すばしり

魅力ある特産品を皆さんに

ふるさと納税が人気となり、その返礼品が地域の魅力や地場産品をPRするようになりました。商品の魅力を知ることで「実際に足を運びたい」と考える人も少なくありません。多くの人に小山町の魅力を知ってもらい、一人でも多くの小山町のファンを増やすためにも、返礼品を充実させ、地域産業の活性化を推進します。おやまのブランドイメージを高める特産品のPRをはじめ、新たなブランドの開発に取り組みます。


ふるさと納税返礼品　生わさびとトマト

映像で魅力発信

スタジオタウン小山では、映像作品の制作を支援し、町の魅力を発信しています。首都圏に近い小山町では多くの映画、テレビドラマなどが撮影されています。

ロケ地巡りや映画祭の開催などにより町の知名度を向上させ、町を訪れる多くの観光客が楽しめる環境を整備し、新たな観光資源を掘り起こしていきます。


ドラマ撮影風景

SDGs

豊かな自然環境を生かした新しい農林業の振興

清らかで豊富な水資源など、町の自然環境を生かした高付加価値で生産性の高い農林業を推進し、持続的な発展を目指します。農地の有効利用を継続して進めながら、国内でも最大級の施設園芸団地による生産や未利用材を有効活用した地域循環型林業など、新しい農林業の創出を進めます。次世代を担う農業者の育成とともに、共同活動の支援や農村の活力を活性化していきます。

効率的な農業経営の推進

農業生産基盤の整備を進め、安定した農業経営を確保しつつ、学校給食や食育活動での地産地消、そして販路の拡大を推進しています。6次産業化の取り組みを充実させることで、道の駅には町の地場産品を求め、多くの人が訪れています。

循環型の新しい農業

大規模施設園芸やスマート農業により、新規就農者の活躍や新たな農業の形態を広く周知し、先進的な農業を推進します。施設から発生する残渣などの堆肥化といった循環型農業を模索していきます。


㈱サンファーム富士小山

高付加価値の農業へ

米・食味分析鑑定コンクール国際大会が令和2年、3年と連続して町で開催され、地元のお米が入賞し、美味しいお米の産地であることを全国にPRする機会となりました。


米・食味分析鑑定コンクール

美しい農村景観を保全

農作業体験などグリーンツーリズムを推進し、農村地域の活性化を図るとともに、魅力的な農村景観を守るために地域ぐるみで取り組んでいます。


こども園ファーム

富士山―金時材

災害に強い森づくりのため、間伐等の森林整備を推進し、木材については、「富士山―金時材」として町産材のブランド化を図っています。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のビレッジプラザに提供するなど、木材利用を推進しています。


適正に管理された森林

豊かな暮らしを実現する新たな住宅地

三来拠点事業の推進にさきがけ、町では平成24年度から積極的な定住促進事業を実施してきました。「育てたい、暮らしたい、帰りたいまち 小山町」を目指し、職住近接の魅力ある住環境整備のため、市街地や郊外に新たに7地区113区画の宅地創出を段階的に進め、10年間にわたり111区画を分譲しました。


優良田園住宅わさび平分譲地(用沢)


クルドサック16(南藤曲)

ゆとりの住環境

分譲地は、各地区の特性や環境に合わせた柔軟な発想のもとに設計され、自然環境と調和した、ゆとりある住宅地「優良田園住宅」や、子育て世代が安心して生活できる区画配置により、豊かなライフスタイルを実現できる場を生み出しました。

大切なものを守りながら、おやまに住み続けたい。そう願う人々が笑顔で暮らせるまちづくりを、これからも続けていきます。


ヒルズ銀杏(大胡田)と大胡田地区分譲地

名　称	戸　数
須走緑ヶ丘(緑ヶ丘)	14
ヒルズ銀杏(大胡田)	6
クルドサック16(南藤曲)	16
ヒルズYOUSAWA(用沢)	19
優良田園住宅わさび平分譲地(用沢)	36
宮ノ台地区分譲地(落合)	13
大胡田地区分譲地(大胡田)	9



子どもたちが元気に育つまち

子ども子育て支援事業計画の基本理念である「支えあい、ふれあい、健康で安心して子育て子育ちができる金太郎の郷」の実現に向けて家庭、地域、事業者などの関係団体が一丸となって子どもの最善の利益の実現を図ります。これからも、子育てにやさしいまちづくりを進め、子育て世帯がずっとこの町で子どもを育てたいと思える町を目指します。





令和3年にオープンしたすがぬまこども園舎

子育てにやさしいまち

少子化や核家族化を背景として妊娠・出産・育児に関する支援が求められています。町では、妊娠、出産、育児まで切れ目ない支援体制を構築しています。妊娠から出産後の手続き、各種支援の案内などをまとめた子育て支援ブックを発行しています。初めての子育てを担う保護者の経済的負担を軽減するための助成制度や、子育て世帯がのびのび安心して暮らせる宅地分譲事業を実施するなど、子育てにやさしい町づくりを進めています。

町立4園こども園化

平成26年に北郷幼稚園ときたごう保育園を統合し、きたごうこども園を開園しました。また、令和2年から町立幼稚園と保育園は統合などにより全てこども園となりました。こども園化したことで、親の就労状況等に関わらず一体的な教育・保育を提供しています。また、平成28年には私立菜の花こども園、令和2年には私立みらいこども園が開園し、病児・病後児保育などの特別保育を提供しています。

子育て支援企業との連携

子育て世帯の移住定住に向けた取り組みとして、平成27年7月に子育て応援サイトや子育て世帯向け情報誌を発行しているミキハウス子育て総研株式会社と「子育てファミリー支援に関する包括協定」を締結しました。同社から子育て世帯が移住の際に重視する教育や医療などの項目について総合的な評価を受け、全国で3番目となる「ウェルカムファミリーの自治体」認定を受けました。また、町が宅地造成した南藤曲の分譲地クルドサック16は、子育てにやさしい間取りや設備などが評価され、同社が策定している「子育てにやさしい住まいと環境住宅地」として認定を受けています。

交流場所の充実

平成30年度に金時公園をリニューアルオープンしました。公園内には多世代交流施設（金太郎テラス）、ボルダリングボード、屋根付きの土俵、林間ローラースライダーを新設し、また、中心に芝生広場を整備したことにより、住民が集まり、世代を超えてふれあい交流のできる安全・安心な公園となっています。



金太郎テラス





きんたろうひろば



ぺんぎんランド

平成30年に子育て支援センター（きんたろうひろば）を開所し、未就園の子どもが楽しい環境の中で安心して遊べる場であるとともに保護者の交流や子育ての情報交換の場所となっています。きんたろうひろばでは、経験豊富な利用者支援専門員が常駐し、子育ての情報提供や相談に応じます。他にも、子どもの健康や予防接種、離乳食などについて保健師や栄養士が相談を受ける、すくすく健康相談や子育て講座などのさまざまな事業を実施しています。

また、「きんたろうひろば」の他に町立こども園4園で実施しているぺんぎんランド、私立のこども園で実施している「なのはなパーク」や「みらいランド」があり、入園前の幼児に同年代の子どもと遊ぶ機会を設けて、集団での遊びの楽しさや保護者の交流の場を提供しています。

毎月1回、子育てに関する情報を掲載した『おやま子育て通信』を発行し、ぺんぎんランド（園開放日）のほか、生涯学習課で主催する児童向けの趣味教室の参加者募集など子育て世帯向けの情報を発信しています。


元気に園庭を走る園児



ステージに合わせた手厚い支援

子どもの人格形成の基礎を培う機会を支援し、子育てに係る費用の負担軽減を図るために、妊娠時期からステージごとに様々な支援を行っています。

不妊治療を行う夫婦の経済的負担軽減を図るため、保険診療、診療外にかかわらず、不妊症、不育症の検査や治療にかかった費用の一部助成を行っています。

妊娠期には、これからお父さんお母さんになる人たちにパパママ学級を開催し、妊娠・出産に関する講義・相談を行います。

また、出産後には、赤ちゃん訪問や親子の絆づくり教室、3歳児健診など、月齢に応じた教室や健診でサポートします。


親子の絆づくり教室

こども園を利用する3歳児から5歳児クラスの保育料と0歳児から2歳児クラスの住民税非課税世帯の保育料を無償としています。

また、町では、多子軽減制度として、保育料を年齢制限に関係なく第2子半額、第3子以降無償としています。保護者の都合により、一時的に保育ができない時の支援策として、預かり保育、延長保育、一時的保育を実施しています。


健診

平成31年から給食費の無償化を始めました。3歳から5歳までの給食費（副食）に加え小中学校の給食費も無償化しています。

また、子どもの医療費の負担軽減を図るため、平成30年10月から町内に住所のある18歳までの子どもの入院・通院にかかる医療費の保険診療に係る自己負担分を全額助成しています。


砂場で遊ぶ園児



ごてんば・おやまファミリー・サポート・センター交流会



ファミリーサポート（一時預り）

子育て支援の充実

保護者の都合により、一時的な保育や保育園の送迎など育児の援助を受けたい時に、ファミリーサポートセンターが支援をしています。ファミリーサポートセンターは、子育ての手伝いをしたいという人たちが子育てを手伝ってほしいという人たちの子どもを一時的に預かり、子育てを地域で相互扶助する取り組みとして御殿場市と協力して取り組んでいます。


放課後児童クラブ

放課後児童クラブは、放課後に就労等で家庭に保護者のいない児童に対し主体的な遊びや生活の場を提供することで児童の健全育成を図ることを目的として、全小学校に設置しています。令和3年4月からは放課後児童クラブの運営機能を強化するため、小山町放課後児童健全育成会が全ての放課後児童クラブを統括し、運営を行っています。

SDGs

地域共生社会の実現

町は、誰もが安心して暮らすことができるよう、行政、関係機関、地域住民がお互いに支え合い、助け合いながら暮らしていくことができる地域共生社会の構築に努めています。


民生委員によるスポーツ体験会

さまざまな相談の実施

町は、社会福祉協議会や地域包括支援センターとともに、町民のさまざまな困りごとやニーズに対応する相談・支援体制を整えています。

その他、暮らしなんでも相談、ココロの健康相談、障がい者・高齢者介護に関する相談、生活困窮者自立相談、法律相談、心配ごと相談、人権相談などさまざまな相談窓口を設置しています。

高齢者の交流の場

町内にある公民館や町の施設などを利用して、体操やおしゃべり、スポーツ、レクリエーションなどを楽しむさまざまな交流の場を提供しています。

障がいの有無や年齢に関係なく、誰でも立ち寄ることができる高齢者の居場所を増やし、閉じこもりがちな高齢者への参加を呼びかけています。

地域活動の担い手確保

高齢者の居場所などの地域活動を支援する、はつらつ元気サポーター、ふれあい茶論（さろん）運営協力委員、オレンジサポーター、自主運動教室運営者などの担い手を養成し、その活動を支援しています。

また、高齢者や障がい者が、いつまでも働くことができるよう、多様な就労機会の提供に努めています。


はつらつ元気サポーター


なごみの会

地域包括ケアシステムの構築

今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症対策として、認知症サポーター養成上級講座を終了したスタッフなどが運営するオレンジカフェを行っています。また、外出時に現在地が分かるGPS端末の貸出し、見守りネットワークなど、本人や家族が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、さまざまな取り組みを行っています。

高齢者の筋力アップを図り、お達者度の向上を目的として、町と小山町健康づくり推進協議会が協働で制作した町オリジナル介護予防体操「元気だらぁ体操」などを行っています。また、健診のデータ分析などにより、健康課題（ハイリスク）や認知機能の低下などを把握できた人に対して、生活状態に着目し、低栄養防止・重症化予防の啓発、重複投薬者・健康状態が不明な人への保健指導、認知症初期集中支援チームによる訪問など、各種専門職による的確な個別支援を行っています。




オレンジカフェ




認知症サポーター養成上級講座


げんきファーム

障がい者の就労支援サービスの提供

障がいをお持ちで一般就労が難しい人に、支援を受けながら働く場所を提供しています。知識や能力向上の機会を提供する就労継続支援事業所を支援し、地域で生活できるように関係団体と連携していきます。


障がい者就労支援（ワークホーム・アップル）



SDGs

健康づくり

町は、住民幸福度日本一の町を目指し、生涯を通じての健康づくりをサポートしています。
若年層に対する生活習慣病予防、高齢者に対するフレイル予防などに取り組むとともに、
医療や介護が必要となった場合に、必要なサービスが提供されるしくみづくりに努めています。


きんたろう体操会





健康寿命の延伸を目指して

高齢化の進行が進み、持続可能な高齢者施策や介護保険制度の推進が課題となっており、今後は医療費や介護給付費の増大を抑制することが重要です。

町では、心身のフレイル（心身の虚弱）状態を予防、改善するため糖尿病等の重症化予防事業や、小山町オリジナル介護予防体操「元気だらぁ体操」などの高齢者の保健事業と介護予防事業を一体的に実施しています。

また、関係機関と連携し「ふれあい茶論」「元気塾」「おでかけクラブ」「須走いきいき教室」などの教室を開催し、高齢者の健康づくり、いきがいづくりへの支援を行っています。


きんたろう体操会

健康チェック・健康相談

町の施設を利用し、月1回「健康屋さん」を開催しています。

骨密度測定やインボディ（体成分分析装置）による筋肉量・体脂肪量測定の他、保健師や管理栄養士など専門職による一人一人にあった健康アドバイスを行い、町民の健康づくりのお手伝いをしています。



健康屋さん

感染症の拡大を防止

新型コロナウイルスの感染に対応するため、また町民の安全・安心な生活を確保するため、ワクチン接種をはじめ、町のホームページ、小山町公式ＬＩＮＥ、無線放送などで最新の情報を発信しています。

集団接種では、医師、看護師、保健委員等多くの方のご協力をいただき、オールおやまで取り組んでいます。


新型コロナワクチン集団接種会場

健康増進の拠点整備

平成12年に開館した健康福祉会館は、防災拠点や地域コミュニティの活性化に対応する複合施設とするため、大規模改修を行い、平成28年にリニューアルオープンしました。

リラクゼーションスタジオやダンス・ヨガスタジオなどを新設し、各種マシンを設置するなど、町民の心と体の健康づくりのお手伝いをしています。


健康福祉会館 リラクゼーションスタジオリニューアルオープン

ウォーキングで健康増進・人口交流の拡大

町では、県内初の取り組みとなる「クアオルト健康ウオーキング」を行っています。

町内に「須走・富士山眺望コース」と「足柄古道・銚子ヶ淵コース」の2つのコースがあり、専門ガイドが案内をし、町内の恵まれた自然環境の中を楽しくウォーキングを行い、健康増進と交流人口の拡大を図っています。


クアオルト健康ウオーキング

健康管理を応援

おやま健康マイレージは、保健事業やイベントの参加、自主的な健康づくりに取り組み、ポイントをためると、さまざまな特典が受けられる事業です。

健康を意識した生活を、日常的に取り組む動機づけとして、平成26年度にスタートし、町民の健康管理を応援しています。



SDGs

生きる力を育む

町内には、こども園6園（内私立こども園2園）と小学校5校、中学校3校があります。
令和4年5月1日現在の各施設の児童・生徒数は、こども園548人、小学校916人、中学校438人です。
特別支援学級は小学校6学級、中学校5学級を設置しています。
知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育てる教育を目指しています。

小山町 金太郎十か条

金太郎のような強い心と体、高い志を持ち、みんなのために役立つ人を目指します。

一、あいさつを進んでします
二、きまりを守ります
三、みんなと仲良くします
四、時間を守ります
五、うそや隠しごとはしません
六、早寝早起きをして、朝ご飯を食べます
七、相手を考えた言葉づかいをします
八、毎日、本を読み、勉強をします
九、体を進んで動かします
十、いろんなことに進んで挑戦します

地域で活躍できる子ども

子どもたちが地域で安心して暮らせ、地域で活躍ができるよう、地域ぐるみで生きる力を育む教育を推進しています。

平成30年度から、「ふるさと金太郎博士事業」を開始し、小学3年生から中学3年生までを対象として、地域と関わる活動を推進しています。

町主催事業やボランティアなどの活動に参加するとポイントに応じて「金太郎博士」「金太郎名誉博士」に認定します。

また、平成28年度には、金太郎のような強い心と体、高い志を持ち、みんなのために役立つ人を目指すよう「金太郎十か条」を制定しました。


地域行事への参加


中学生ボランティア

魅力ある学校給食

町では、昭和30年に須走小学校で給食を開始し、以降中学まで、自校式の給食を実施しています。地元の食材を取り入れた望ましい食習慣や食生活が身につくように食育の指導を行っています。

また平成31年からは、保護者の負担を軽減するため、公立こども園、小・中学校の給食費の無償化を行っています。


学校の自校式給食

教育の情報化

社会生活の中でICTを日常的に活用することが当たり前の世の中となる中で、社会で生きていくために必要な資質・能力を育むため、学校の生活や学習においても日常的にICTを活用できるよう、児童生徒1人1台のICTタブレットの環境を整備しています。


タブレットを活用した授業

キャリア教育の推進

将来の小山町を支える人材確保につなげるため、平成27年度から小山高校の生徒をインターンシップとして小山町役場で受け入れをしています。

小山高校の卒業生は、一般企業のみならず、官公庁、教員、保育士などとなり地元に貢献、活躍をしています。


小山高校生のインターンシップ

切れ目のないライフサポート

流出傾向が続いている若者世代を支援するため、新たに遠距離通学定期券購入費助成、奨学金返還支援助成金などの「ライフサポート事業」を創設しました。

おやまで生まれ育った子どもたちが生き生きと学び、地元で働くための支援を行っています。



地域の中で充実した生活や活動

町民が生涯にわたり主体的に学習活動が続けられるよう、著名な講師による生涯学習推進講演会や小山町ゆかりの歴史や文化を学ぶ町民講座やふるさと発見講座、子ども向けの教室など幅広い年齢層に向けての趣味教室やスポーツ教室など多種多様な事業を開催しています。


町民スポーツ祭

SDGs

文化遺産の継承

町は富士山を頂点とした富士外輪状の三国山系と丹沢山地、箱根外輪山に囲まれ、自然環境と多彩な地形・地質、そして古くから交通の要所であったことなどを背景に、それぞれの地域で特徴的な歴史文化が育まれ、現在まで守り伝えられています。
明治22年に東海道本線が開通し、小山駅（現駿河小山駅）が開設されました。
鉄道幹線の開通、日本の工業を先導した富士紡績株式会社の創業により
明治の終わりから町は大きく発展しました。


豊門公園

町の経済発展の礎築く

豊門公園地内には6件の国登録有形文化財があり、なかでも豊門会館は、明治39年に東京（向島）に建築された富士紡績初代社長の和田豊治の邸宅を大正14年に移築したものです。和館と洋館を合わせもち、規模が大きく、内部装飾に優れた建物です。西洋館は、塔を正面に配したモダンな印象を与える建物となっています。令和元年度には大規模改修し、小山町発展のシンボルとして町民から親しまれています。

芸術に触れる機会の創出

町では、町民に一流の文化芸術に触れる機会を創出するため「おやまアートビレッジ」を開催しています。

「おやまアートビレッジ」は、ストリートピアノや町内出身の芸術家による作品展、音楽家による演奏会、コンサートなど年間を通して開催しています。誰もが気軽に参加し、芸術文化に親しむことのできる機会を提供しています。

「文化芸術のまち、おやま」を全国に積極的に発信しています。


おやまアートビレッジ



森村橋

国登録有形文化財「森村橋」

森村橋は、1906年（明治39年）に軽便鉄道用（プラットトラス）として建設されたのち道路橋として使用されました。明治期に製作された数少ない現存する国産トラス橋の1つです。

国登録有形文化財でもあり、土木遺産「鉄の橋100選」にも選定されています。

旧富士紡績小山工場の引込み線の橋として建設され、今なお現位置に現存する森村橋は、地域産業の発展過程を示す重要な産業遺産となっています。

森村橋は建設から110年以上が経過し、老朽化により腐食が激しいことから平成29年度から復原工事に着手し、令和元年度に完成しました。

復原工事は、仮設のトラス橋に森村橋を支持させて解体した後、架設工場にて補強・補修を行いました。総工事費4億2千661万円の大規模工事を実施しました。


町指定文化財「嘉慶銘宝篋印塔」

文化財の保護と継承

町内には、文化財や史跡の他、金太郎にゆかりの地が数多く残っています。それら全てにそれぞれの物語があり、文化と歴史の香りを感じることができます。

新たな文化財の掘り起こしを行うとともに、文化財の保護と継承、活用を推進します。

- 国指定文化財（2件）
- 国登録有形文化財（8件）
- 静岡県指定文化財（4件）
- 小山町指定文化財（18件）

国際交流の推進

平成8年にカナダ・ブリティッシュコロンビア州・ミッション市と姉妹都市提携を結び、平成29年には中華人民共和国・浙江省・海寧市と友好交流関係協定を締結し、両市とは相互の公式訪問交流、学生のホームステイ、オンライン交流など小山町国際友好協会と協力し交流事業を実施しています。

令和4年にはウクライナ大使館職員などが富士登山をするなど更なる国際交流を推進していきます。


ウクライナ大使館職員 富士登山

SDGs

東京2020オリンピック・パラリンピック

2021年7月24日から東京2020オリンピック自転車競技ロードレースでは、世界のトップアスリートが東京武蔵野の森公園をスタートし、小山町の富士スピードウェイを目指して1都3県の道のりを走りました。
個人タイムトライアルは、小山町を中心に競技が行われました。
また、8月31日から町内でパラリンピック自転車競技ロードが開催され、多くの人々に感動と勇気を与えました。







サイクルタウンの実現へ

町は、「オールおやま」で作り上げた東京2020大会のレガシーを繋ぎ、誰もが気楽に楽しめるサイクルタウンの実現に向けて取り組みを行っています。
自転車教室の開催やパラスポーツを通じて、多様性や共生社会の意識を深めていきます。また、東京2020大会の記憶や記録を承継するとともに地域の特性を活かしたスポーツツーリズムの推進に取り組んでいきます。



オリパラモニュメント



小山町パークゴルフ場

スポーツを楽しむ環境づくり

総合体育館、小山球場、弓道場は建設されてから25年以上経過していることから老朽化等に伴い、随時リニューアル工事を実施しています。また、パークゴルフ場はクラブハウスの新設やコース改修に合わせ、（公社）日本パークゴルフ協会の公認コースとして認定されました。



小山町パークゴルフ場クラブハウス



小山球場

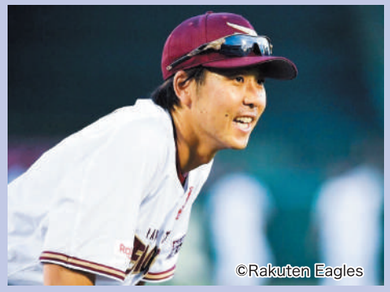


総合体育館（LED照明に改修）

多目的グラウンドでは、令和4年度にジョギングコースが完成しました。
この改修等を機に、健康保持や社交の場として、いつでも、どこでも・だれでも楽しめる「生涯スポーツ」の推進を図っていきます。

スポーツで活躍する小山町出身アスリート

バレーボール選手やプロ野球選手、東京2020オリンピック男子50km競歩、箱根駅伝など小山町出身の人たちがさまざまなスポーツで全国や世界で活躍しています。
また、トップアスリートやトップアーティストを育成する支援策として「青少年海外チャレンジ応援事業助成金」を設けています。



東北楽天ゴールデンイーグルス　鈴木大地選手



サントリーサンバーズ　小野遥輝選手



写真：西元武司・アフロ

東京2020オリンピック
男子 50km 競歩　川野将虎選手



アテネ・北京オリンピック
バレーボール女子日本代表　杉山祥子さん

SDGs

災害に強いまちづくり

内閣府の防災情報のまとめによれば、平成25年以降政府が災害として掲載している件数が激増しています。本町でも過去に経験したことがない豪雨が局地的に起こっており、今後、相模トラフ南海トラフなどの巨大地震や富士山の火山噴火なども懸念されており、避難施設などの防災インフラや備蓄品の整備など、防災対策を推進しています。また、自主防災会の防災資機材購入や住民が行う家具の転倒防止費用の助成を通じて地域や家庭の減災に向けた取り組みを推進するとともに、町民の防災意識啓発に努めます。





令和元年の豪雨災害

過去の教訓を忘れず生かす

平成26年2月の大雪では、須走地区で54センチ（吹き溜まりでは1メートル）を超える大雪に見舞われ、停電、鉄道の運休と主要道路の通行止めの発生や、ライフラインが途絶し、地区が孤立するなど重大な影響がありました。また、令和元年10月の豪雨災害では、町内で連続雨量700ミリの豪雨に見舞われ鮎沢川とその支流が増水し、家屋への土砂流入や床上浸水などの建物被害が発生しました。幸いにも地域の方の声掛けや早めの避難行動により人的被害は出ていませんが、災害を過去のものとせず、防災・減災対策に取り組みます。

富士山噴火への備え

町では、県の富士山ハザードマップ改定に伴い、小山町富士山火山防災マップを令和4年4月に改定しました。富士山は、さまざまな規模や種類の噴火の過去があり、噴火の場所も山頂だけに限らず、山腹にも多く分布しています。町では県などと共同でハザードマップ住民説明会を開催し、今後の避難計画策定のため、準備を行うなど富士山噴火への備えを進めています。



平成26年の雪害

地域で守る ～地域防災力向上へ～

地域防災の中核組織として、町内には40の自主防災組織があり、防災訓練や資機材の点検など日頃から活動を行っています。また、町内に7つある消防団は常備消防と連携し火災時の消火活動に加え災害時の対応などさまざまな役割を担っています。また、御殿場市、裾野市と共同で住民向けに防災士養成講座を開設しており、これまでに100人以上が防災士の資格を取得しました。

平成29年から同報無線設備のデジタル化を進めており、デジタル電波に対応した戸別受信機の配布を行っています。

「自助・共助・公助」の中心にある共助は住民の皆さんの不断の努力で成り立っています。



防災訓練



防災士養成講座

広域連携

南海トラフ巨大地震をはじめ、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、災害の大規模化、激甚化に対応するには他市町や民間企業との協力が欠かせません。町では、平成24年以降茨城県北茨城市など6つの自治体と災害時の相互支援協定を締結しました。また、町内外の50以上の企業・団体と災害時の支援協定等を締結しています。

令和3年の熱海土石流災害、令和4年の静岡市豪雨災害においても町から人的・物的支援を行い災害対応の知識や経験を深めています。



災害時支援協定調印式

感染症への対応

新型コロナウイルス感染症に対応するため、避難所運営マニュアルに感染予防策を盛り込むなど大幅な見直しを行いました。



避難所での感染症対策



地域防災訓練

SDGs

安全安心に暮らせるまち

町内には、富士山やスピードウェイなど有数の観光地を抱え、近隣に大型商業施設があることから、生活道路へのレジャー車両などの流入が多く見られます。
また、足柄SAスマートICや、今後新東名高速道路（仮称）小山PA・スマートICの開設も予定されているため、交通量の増加が見込まれています。
このような状況において、交通事故や犯罪のない町づくりを進めるため、安全意識の高揚を図っています。

犯罪防止に向けた取り組み

犯罪防止の観点から通学路など町内約40箇所に防犯カメラを設置し、さらに、街を明るくして夜間の犯罪を防止するため、地元の区による防犯灯の設置や管理に要する費用に対し補助金を交付しています。また、高齢者に対する振込詐欺などの被害を未然に防止するため、特殊詐欺等被害防止機器の購入に対する補助金を交付しています。町民との連携事業としては、小山・北郷・須走の中学校区ごとに組織されている防犯連絡協議会などを中心に、地域ぐるみでの防犯パトロール等を計画・実施しています。



高齢者の交通事故防止

高齢ドライバーによる交通事故防止のため、高齢者が運転免許証を自主返納する際の手数料補助やデマンドバスの回数券を配布する制度を実施しているほか、後付けの自動車用急発進抑制装置の設置に対する補助を行っています。



交通安全教室

交通安全対策

交通事故防止に向けて町が委嘱する交通指導員は、児童生徒の登校時の安全確保のため、街頭指導を行っています。また、小山町交通安全対策協議会では、全国交通安全運動、交通安全県民運動期間に合わせ、街頭広報や街頭指導、まちかど広報などを実施し、交通安全啓発を行っている他、静岡県交通安全協会と連携し、町内のこども園や小中学校で交通安全教室を開催しています。園児や小学校低学年には横断歩道の渡り方や道路の歩き方、小学校高学年や中学生には自転車の乗り方など、年齢に合わせ、交通事故防止のための教育を行っています。



街頭指導

便利で快適な公共交通

町は、交通弱者対策、公共交通施策として、小山町コミュニティバスを定時運行式とデマンド形式の2つの運行方法をとっています。
利用者の予約に応じて走るデマンドバスは、令和2年4月から運行を始めています。
予約・乗車システムを活用したデマンドバスによる地域生活圏のモビリティの充実を目指す取り組みとして令和4年度「夏のデジ田甲子園」に出場し、全国ベスト4を受賞しました。
町民にとって使いやすく、分かりやすい公共交通を目指し、町民生活の利便性向上が図られるよう推進していきます。



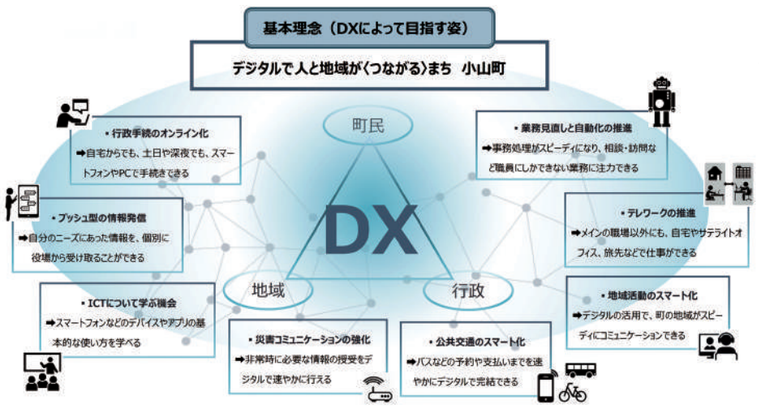
デマンドバス

地域をつなぐ

デマンドバスは、需要に応じたきめ細かい効率的な運行が可能となり、乗り換えによるストレスがなく利用者が好きな時間に好きな場所へ移動できます。バス停は、286箇所（令和4年度現在）設置しており、医療機関や公共施設、一部御殿場市内へも運行をしています。予約は電話やスマートフォンアプリから取ることができ、車内ではキャッシュレス決済、フリーWi-Fiの利用ができます。

デジタル行政の推進

人口減少やインフラの老朽化、新興感染症のリスクなど多岐にわたる課題がある中、デジタルメリットを十分に活用し、住民サービス、地域づくり、行政事務を改善し、住民の利便性と地域の持続可能性を高めて行く必要があります。
町では、令和3年度に「小山町デジタル・トランスフォーメーション（DX）ガイドラインを策定し、デジタルで人と地域が〈つながる〉まち小山町を目指しています。



SDGs

住みよい住環境の整備


建物は鉄筋コンクリート造5階建て40戸で、全ての間取りが段差のないフルフラットフロアで、エントランスはオートロックが完備された安全で安心な構造となっています。

民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律（PFI法）に基づく手法を取り入れ、民間のノウハウによる質の高いサービスの導入や町財政の平準化を図りながら、快適な住まい環境の創出、定住人口の増加、成美地区の活性化を目的に中堅所得者向け地域優良賃貸住宅（グランファミリア落合）を整備しました。

グランファミリア落合は子育て世代を主軸としているため建物1階には子どもたちの遊びや勉強の場、自治会の会議など入居者が多目的に利用できるコミュニティスペースが設置されています。

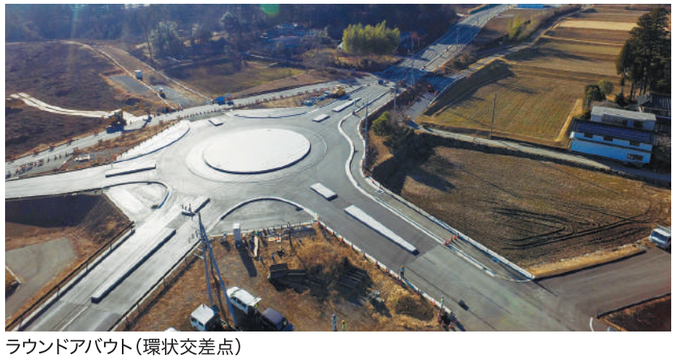
民間アパートのリフォーム促進

立地企業の従業者や若者世代の住宅ニーズに応える、機能的な賃貸住宅を確保するため、「民間賃貸住宅リフォーム助成」を創設しました。防犯性や断熱性の向上、間取りの変更などへの助成を通じて、住みやすい賃貸住宅の数を増やし、暮らしたい町として選ばれる小山町を目指していきます。


民間賃貸住宅リフォーム助成を活用したアパート

快適な道路ネットワーク

新東名高速道路、国道246号の4車線化など高規格幹線道路が進められ、小山町の道路ネットワークも大きく変貌しています。また、平成31年に開通した東名高速道路足柄スマートICにより、首都圏へのアクセスなど利便性が向上しています。生活道路においては、新東名高速道路（仮称）小山PA・スマートIC近くにラウンドアバウト（環状交差点）が令和3年に開通し、まちの新たな玄関口のシンボルとなる安全で快適な交差点が誕生しました。


ラウンドアバウト（環状交差点）

地域コミュニティ活動の活性化

人口減少や高齢化により、地域コミュニティの形成と維持は重要となり
地域コミュニティのさらなる活性化を促進する仕組みづくりが必要となっています。
町民一人一人が町に愛着と誇りを持ち、
将来に夢や希望が持てる魅力あるまちづくりを行うために、
町政運営に積極的かつ主体的に参加できる仕組みづくりと情報の共有を進めます。


北郷地区地域イベント（十五夜イベントストリート）


須走まちづくり推進協議会活動（国道138号線修景事業）

平成23年度から地域担当制度を実施し、各地区に地域担当職員を配置しています。地域担当職員は、地域支援を行うとともに、地域活動の活性化と地域に応じた課題解決に務めています。

各地区では、地域担当職員や地区協議会等が主体となり、さまざまなイベントを開催し、地区コミュニティの活性化を図っています。

地域活動やボランティア活動への参加を促進しています。

特に教育委員会では、中学生ボランティアの参加を促しています。学校では体験できない色々な経験や、気づき、地域の人と接する機会を得るなど、他校の生徒とのコミュニケーション、人とのつながりを持つことで新たな町の良さを発見し、地域を担う人材の育成を図っていきます。



明倫地域まちづくり推進協議会活動（水菜の摘みとり体験）

活動拠点の整備

町は、昭和30年に足柄村、翌31年に北郷村、須走村と合併し、各地区に支所やコミュニティ施設を設けています。各地区の支所・コミュニティセンターの老朽化に伴い、令和元年度に須走支所・コミセンのリニューアルを実施し、令和2年度に足柄支所をJR足柄駅の位置に新築し、令和4年度に足柄地区コミュニティセンターのリニューアルを行いました。北郷支所・北郷地区コミュニティセンターについては、今後のあり方や規模などについて具体的な検討を令和4年度から開始しました。今後、新しい施設の整備を進めます。


JR足柄駅・役場足柄支所

持続可能な社会を目指して

雄大な富士山の豊かな自然環境の恩恵を受けている小山町では、身近な環境に対する意識を高め、環境保全に努めています。

環境への意識の醸成

町では、町内各所で実施する一斉清掃などの環境美化活動により、環境美化に対する地域住民の意識の醸成を図っています。

富士山の自然環境を守り、いつまでも美しくすることを目的として、毎年、多くの企業、団体が参加し、「富士山一斉清掃」を行っています。富士山一斉清掃では、須走浅間神社やふじあざみライン、5合目駐車場、小富士遊歩道などで清掃活動を行い、ごみの持ち帰りと登山マナーの啓発を行っています。

また、秩序ある登山を維持し、環境負荷を減らすための方策として、富士山須走口のマイカー規制を実施しています。

令和5年には、富士山須走口5合目インフォメーションセンターがオープンし、自然環境や登山マナー及び須走口に関する情報発信を行います。



富士山一斉清掃

循環型社会の構築

ごみの分別を徹底するとともに、ごみの減量化と資源としての再使用・再利用を進め、循環型社会の構築を目指します。

また、地球温暖化対策として、再生可能エネルギーへの転換や温室効果ガスの削減、貴重な財産である水資源を保全し、適切に活用していきます。

SDGsの推進

持続可能な開発目標（SDGs）とは、平成27年（2015年）9月の国連サミットで採択されたよりよい世界を目指すための目標のことです。町は、令和3年3月に策定した「第5次小山町総合計画」の各施策を講じることにより、SDGsの推進を図っています。

令和3年9月には、SDGsフェアを総合文化会館で開催しました。



各目標に対する町の取り組みや、町民の皆さんから募集したSDGsの取り組みなどを紹介し、SDGs推進のための周知を行いました。

食品ロスの削減

食べられるのに捨てられてしまう食品、いわゆる「食品ロス」は、日本では年間500万トンを超える大きな問題となっています。

町や小山町社会福祉協議会では、家庭などで余っている食料を集め、必要としている福祉施設や団体などに寄付する「フードドライブ」の実証実験などを行い、食品ロスの削減と資源の循環化に取り組んでいます。



フードパントリー


湯船原地区太陽光発電事業・湯船原工業団地

再生エネルギーの推進

町では、災害に強く持続可能な太陽や水、森林などの豊かな自然資源を活かした再生可能エネルギーの導入を促進しています。

静岡県の「再生可能エネルギーを活用した産業拠点整備事業推進区域」に指定された「湯船原地区」において、平成29年9月から太陽光発電事業を行っています。

発電所名は「DREAM Solar ふじおやま」で、東京ドーム約6個分に相当する27ヘクタールという広大な敷地面積を誇り、16・4MW約4100世帯を賄う電力量に相当します。

太陽光発電の操業により、脱炭素社会の推進のほか、有事の際の、地域の非常用電源確保にも寄与します。


DREAM Solar ふじおやま

地域資源の循環

町では、林業をはじめとする町内の地場産業の活性化に寄与し、災害に強い強靭な森林づくりと地域づくり、温室効果ガスの削減などを目的とした木質バイオマス発電事業を平成30年9月から行っています。

発電資源は、未利用間伐材を活用した木質ペレットで、地域の材を活用することで地域資源循環型社会、持続可能な社会形成に向け、周辺環境との調和と地域経済への好循環を図っていきます。


木質バイオマス発電所

めぐまれた自然を愛し、美しいまちをつくります。

SDGs

富士山と共に生きるまち



ゼロカーボンシティの推進

近年地球温暖化が一因とされる気候変動は、人々のくらしや生態系に影響を与える深刻な問題となっており、町においても、令和元年10月の台風19号では山間部の土砂災害、家屋への土砂流入など大きな被害をもたらしました。

このような中、世界各国や我が国では、2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しています。

町でも、令和4年3月に「小山町ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指し、富士山麓の森林保護に関する取り組み、再生可能エネルギーの導入、ごみ処理や上下水道など生活インフラにおける取り組み、公共交通の利用促進や環境負荷の少ない交通の普及促進に関する取り組みを推進していきます。

なお、令和4年5月には、富士山の麓にある富士市、富士宮市、御殿場市、裾野市、小山町の4市1町が共同でゼロカーボンシティ宣言を行いました。

広域での宣言をきっかけに、脱炭素社会の実現に向けて関係市町とも協力し、各施策に取り組みます。

清らかで豊かな水

町には、恵まれた水資源があり、須川流域における湧水群をはじめとする環境は、貴重な財産となっています。

良質で豊富な地下水は、農業用水をはじめ工業用水、生活用水に利用され、本町では地下水を資源とした地域産業が発展してきました。

水資源は貴重な自然資源であり、町の財産です。この湧水を活かし、水菜、わさび、マスの養殖などを行っています。

採取と保全のバランスを取り、有効に活用していきます。


恵まれた自然資源である湧水

安全な水の供給と適切な下水処理

快適な生活を送るためには安全でおいしい水道水の安定供給が欠かせません。

そのため町では、古い水道管の布設替えや、配水場の改築、ポンプなどの電気設備の定期更新といった様々な工事を実施しています。

これからも、将来の水需要に対応できるように水質の保全と水の安定供給に努めていきます。

また、河川の水質保全、生活環境の改善などを目的として須走地区を公共下水道の事業区域として運営しています。

下水道のない区域には、合併処理浄化槽の設置を奨励し、補助金を交付しています。


水道管の布設替え

議決機関

議会

議会は、町民から直接選挙された議員が町民に代わって町の具体的な政策を決定する機関です。


平成28年度から毎年高校生議会を開催

組織

小山町の議会は13人の議員によって構成され議員の中から議長、副議長を選出します。

議長は、議場の秩序保持、議事の整理などのほか議会事務局を統括し、議会を代表します。

運営

町議会は、年4回（3月、6月、9月、12月）開かれる定例会と、必要があるときに開かれる臨時会があります。

議会には提出された案件などを専門的にかつ能率的に審査または調査するため、常任委員会を設けています。

常任委員会は、総務建設委員会、文教厚生委員会、広報広聴委員会の3つがあります。

●総務建設委員会　7人

理事、企画総務部、経済産業スポーツ部、都市基盤部、支所及び会計収納課の分掌に関する事務並びに他の常任委員会の所管に属さない事務の調査並びに議案、請願等の審査

●文教厚生委員会　6人

教育委員会、住民福祉部及び危機管理局の分掌に関する事務の調査並びに議案、請願等の審査

●広報広聴委員会　6人

議会報告会及び議会の広報広聴に関する事項

開かれた議会

町民に開かれた議会を目指すために、ホームページで会期日程や議員の一般質問の内容、会議録などを公表しています。

また、議員の質問については、その録画をユーチューブで公開しています。

さらに「議会だより」を発行して議会内容をお知らせしています。

議会基本条例

町議会では、議会の果たすべき責任と役割を明らかにし、議会の使命を実現させるため、平成27年に議会基本条例を制定しました。

高校生議会

平成28年に選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことから、高校生に町議会、行政に関心を持ってもらうことを目的として毎年「高校生議会」を開催しています。

特集

金太郎伝説

The Legend of Kintaro

中島、金時公園のあたりを坂田屋敷とよび、古くから金太郎生誕の地と伝えられています。

ちょうど今から千年のむかしのことでした。この山ふかい中島の里に見なれぬ女がどこからかやってきて住みつきました。里人のうわさでは京の都からはるばるとくだってきたというのですが、いったい何のためにこんな山里に住みついたのか、誰もみなふしぎに思うことでした。

南からの陽をうけて中島は明るくて、とてもよいところです。うら山には杉がしげり、木の間にわいた清水がいくだんもの滝をつくり、里人は『七滝』とよび、そのかたわらに、第六天さんをまつったりしてありました。

小鳥の鳴声、滝の音、里をめぐって緑の山々そこに住む心やさしい里人たちにかこまれて京の女は元気いっぱい、玉のような男の赤ちゃんをうみおとしました。

そうです。金太郎の誕生なのです。

ゆたかな大自然と、心あたたかな里の人たち、また優しい母親の愛情のなかで金太郎はすくすく育っていきました。くまや、うさぎやさる、しかが友だちで、はらかけひとつ、まさかりかついだ金太郎はやがて、その頃の名高い武将、源頼光に見いだされ、そのけらいになるのです。足柄山の金太郎は坂田の公時と名をかえて、ふるさと中島と母とに別れ京へのぼっていきました。

そののち頼光の四天王（4人の主な家来）として大江山で酒呑童子をやっつけたり、りっぱな武将になりました。





足柄駅 金太郎像

金太郎ゆかりの地

金時屋敷
金時神社拝殿のあるところで、金太郎が育った家があった。

第六天社
金太郎親子が信仰していた。

ちょろり七滝
金太郎の産湯に使った。

金時杉（二代目）
金太郎が登って遊んだとされる大杉。

子産田
金太郎を産み落としたところ。

子産明神
母八重桐を祀った社。

あさかえ園
母八重桐が懐妊の身を養った温泉。

沼子の池
金太郎が遊んだ池。

姥の腰掛石
母八重桐が足柄山で遊んでいる金太郎を、座って待っていた石。

遊女の滝
母八重桐が腹に宿した金太郎の健康を祈願して身を打たせた滝。

爪切地蔵
金太郎が爪で描いたお地蔵様。

頼光対面の滝
金太郎が源頼光と対面した滝。


沼子の池


遊女の滝


爪切地蔵


頼光対面の滝

金時山 1212m

金時山は箱根外輪山の一つで、猪が鼻を空へ突き出した様なかっこうをしてそびえています。昔は猪鼻山と呼ばれていましたが、金時がしばしば遊びに登ったというので、いつの間にか金時山と呼ばれるようになりました。

山頂には、金時がいつも登って遊んだという八畳敷位の平らな大岩「遊び石」や、金太郎が熊と相撲をとった時、誤って踏み割った石といわれる「踏割石」などの話が残っています。





金時屋敷

中島に「坂田」と称する小字があります。坂田には家が3軒あって、その1軒が坂田公時の生まれた家と言い伝えられています。その屋敷は「金時屋敷」と呼ばれてきました。

そして、昭和9年になると、金時屋敷跡に金時神社が建てられました。現在は金時公園として、金太郎の産湯に汲んだという「ちょろり七滝」や、金太郎が遊んだという「金時杉（二代目）」、金太郎母子が深く信仰したという「第六天社」などがあります。







金太郎終焉の地 勝央町

岡山県勝田郡勝央町は、金太郎終焉の地と称され、その墳墓と神社があります。

金太郎がとりもつ縁で、小山町と勝央町は昭和48年11月24日に、姉妹町縁組を結びました。令和5年には縁組五十年を迎えます。


勝央町 栗柄（くりから）神社

特集　110年年表

大正 1912〜

昭和 1926〜


昭和10年　金時公園開園


昭和48年　勝央町と初電話


昭和54年　台風20号災害


昭和13年　横綱双葉山が大相撲興行.


御殿場線を走るSL


昭和63年　浩宮徳仁親王(現在の天皇陛下)が富士登山

大正元年	8月1日	六合村、菅沼村が合併して町制施行。小山町が誕生。
大正9年	10月1日	第1回国勢調査。人口17536人、世帯数2986戸。
大正12年	9月1日	関東大震災。震度6の揺れで県下最大の被害。死者149人、行方不明4人、重軽傷182人、全壊家屋488戸、半壊家屋2502戸。
大正14年	10月1日	第2回国勢調査。人口19105人、世帯数3303戸。
大正15年	5月16日	豊門会館が落成。
昭和5年	10月1日	第3回国勢調査。人口16916人、世帯数3213戸。
昭和7年	11月13日	小山町役場新庁舎が落成。
昭和9年	12月1日	丹那トンネルが開通し、東海道本線が熱海経由に。沼津〜国府津間は御殿場線となる。
昭和10年	4月14日	金時公園が開園する。
〃	10月1日	第4回国勢調査。人口15230人、世帯数2762戸。
昭和15年	10月1日	第5回国勢調査。人口13912人、世帯数2345戸。
昭和20年	7月30日	米軍艦載機の空襲で富士紡績をはじめ、町内に人的被害。
昭和22年	9月15日	御殿場線足柄駅開業。
〃	10月1日	臨時国勢調査。人口16658人、世帯数2922戸。
昭和25年	10月1日	第7回国勢調査。人口16803人、世帯数2844戸。
昭和27年	1月1日	御殿場線駿河駅が駿河小山駅に改称。
昭和29年	8月10日	陸上自衛隊富士学校が開設。
昭和30年	4月1日	足柄村と合併。
〃	10月1日	第8回国勢調査。人口17273人、世帯数3181戸。
昭和31年	8月1日	北郷村と合併。
〃	9月30日	須走村と合併。
昭和32年	7月31日	古沢地区が御殿場市に編入。現在の町域になる。
昭和35年	10月28日	第12回国体ライフル競技が須走で開催される。
〃	10月1日	第9回国勢調査。人口25944人、世帯数4720戸。
昭和39年	10月6日	東京オリンピックの聖火を継走。
昭和40年	4月1日	町立老人ホーム「福寿荘」開設。
〃	7月9日	児童館を開設する。
〃	10月1日	富士霊園が開園する。第10回国勢調査。人口25301人、世帯数4919戸。
〃	12月5日	富士スピードウェイがオープンする。
昭和41年	4月1日	老人福祉センターを開設する。
昭和43年	6月12日	役場別館が全焼。
〃	7月1日	御殿場線全面電化。
〃	11月18日	落合に町立体育館を開設する。
昭和44年	5月26日	東名高速道路が開通する。
昭和45年	1月1日	町章・町旗を制定する。
〃	5月21日	落合に中央公民館を設置する。
〃	7月29日	吉久保に町民総合グラウンドを設置する。
〃	9月13日	中島に町民プールを開設する。
〃	10月1日	第11回国勢調査。人口24256人、世帯数5236戸。
昭和47年	7月12日	集中豪雨と15日からの台風6号による大水害。死者3人、流出家屋4戸、全壊家屋13戸、半壊家屋29戸、道路、橋梁、河川、山地崩壊、農地、農作物、水道、水産、鉄道など被害額合計が24億円余。災害救助法が適用される。
昭和48年	11月24日	岡山県勝央町と姉妹町縁組を結ぶ。
昭和50年	10月1日	第12回国勢調査。人口24072人、世帯数5575戸。
昭和51年	3月28日	青少年会館が完成する。
昭和53年	4月24日	町民健康センターを開設する。
昭和55年	10月1日	第13回国勢調査。人口23212人、世帯数6217戸。
昭和57年	5月29日	京都府大江町（現・福知山市）と観光友好提携。
〃	8月1日	町の花「菜の花」、木「ふじ桜」、鳥「うぐいす」を制定する。
〃	12月5日	町制70周年、新庁舎落成記念式典を挙行し、町民憲章を制定する。
昭和58年	3月25日	須走地区コミュニティセンターが完成する。
昭和59年	3月25日	足柄地区コミュニティセンターが完成する。
昭和60年	4月1日	静岡県立小山高等学校が開校する。
昭和63年	10月1日	第14回国勢調査。人口23277人、世帯数6294戸。
〃	8月1日	浩宮徳仁親王（現在の天皇陛下）が須走口から富士登山。

平成 1989〜


平成22年　駿河小山幼稚園誕生


平成24年　福知山市と観光友好都市提携


平成4年　総合文化会館完成

1989 平成元年
3月29日　東富士五湖道路が全線開通する。
1990 平成2年
10月1日　第15回国勢調査。人口23566人、世帯数6753戸。
1992 平成4年
2月14日　総合文化会館落成式を挙行する。
1994 平成6年
6月23日　小山球場、多目的広場が完成する。
1995 平成7年
10月1日　第16回国勢調査。人口22780人、世帯数6522戸。
1996 平成8年
3月14日　総合体育館が完成する。
10月7日　カナダ・ミッション市と国際姉妹都市提携。
12月25日　「小山町史」全9巻が完成する。
1998 平成10年
4月1日　健康福祉会館「ふじみセンター」が開館する。
2000 平成12年
10月1日　第17回国勢調査。人口22235人、世帯数6530戸。
2003 平成15年
10月26日　第58回わかふじ国体銃剣道大会が小山町で開催される。
2004 平成16年
4月27日　須走・須走東災害対策センターが竣工する。
2005 平成17年
11月25日　道の駅「ふじおやま」が開駅する。
1月12日　町民いこいの家「あしがら温泉」オープン。
4月1日　富士スピードウェイがリニューアルオープン。
10月1日　第18回国勢調査。人口21478人、世帯数6669戸。
11月10日　豊門会館和館・洋館、豊門公園西洋館、森村橋などが、国登録有形文化財に登録される。
2007 平成19年
9月28日　F1日本グランプリが富士スピードウェイで約30年ぶりに開催。
2008 平成20年
11月4日　ご当地ナンバー「富士山」が交付開始。
2009 平成21年
10月25日　第24回国民文化祭しずおか2009「民謡・民舞の祭典」が小山町で開催される。
2010 平成22年
10月1日　第19回国勢調査。人口20629人、世帯数6564戸。
2011 平成23年
4月14日　道の駅「すばしり」が開駅する。
2012 平成24年
8月1日　町制100周年記念式典を挙行する。
9月21日　京都府福知山市と「観光友好都市提携」「災害時の相互応援協定」調印式。

近10年 2013〜


平成24年　34年ぶり町民体育大会


平成26年　記録的な積雪による雪害

2013 平成25年
4月1日　富士山が世界文化遺産に登録決定される。
2014 平成26年
2月14日　第14回静岡県市町対抗駅伝競走大会　町の部　初優勝。
6月26日　記録的な積雪により、須走地区が一時孤立し災害派遣要請を行い自衛隊が除雪作業に出動する。
11月30日　きたごうこども園が開園（町初の幼保一体施設）する。
2015 平成27年
8月2日　第15回静岡県市町対抗駅伝競走大会　町の部　優勝　2連覇達成。
10月1日　あしがら温泉入館者100万人達成。
2016 平成28年
9月1日　第20回国勢調査。人口19497人、世帯数6431戸。
10月22日　小山町教育振興基本計画策定・「金太郎十か条」を制定する。
2017 平成29年
12月3日　道の駅「ふじおやま」来場800万人達成。
3月15日　第17回静岡県市町対抗駅伝競走大会　町の部　優勝　3度目。
2018 平成30年
3月7日　「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靭化大賞）2017」金賞受賞。
3月13日　子育て支援センター「ぎんたろうひろば」オープン。
4月14日　吉久保パークゴルフ場クラブハウスオープン。
4月25日　豊門公園が開園する。
10月1日　足柄ふれあい公園BBQガーデンオープン。
10月11日　富士山ナンバー図柄入りナンバープレート交付開始。
2019 平成31年
3月9日　あしがら温泉入館者150万人達成。
10月12日　東名足柄スマートIC供用開始。
12月26日　台風19号に伴う豪雨により、町内に甚大な被害発生。
2019 令和元年
3月17日　道の駅「ふじおやま」来場者1000万人達成。
7月13日　足柄幼稚園が閉園する。
9月30日　足柄駅前交流センター開所・役場足柄支所移転開所。
10月1日　国登録有形文化財「森村橋及び橋詰広場」竣工。
10月31日　第21回国勢調査。人口18568人、世帯数6442戸。
2020 令和2年
3月25日　駿河小山駅前交流センター・FUJI CYCLE GATE オープン。
6月25日　大御神環状交差点（ラウンドアバウト）供用開始。
7月24日　東京2020オリンピック聖火リレー　豊門公園〜健康福祉会館。
7月25日　東京2020オリンピック自転車競技ロード（ロードレース・個人タイムトライアル）
8月31日〜9月3日　東京2020パラリンピック自転車競技ロード
2021 令和3年
4月1日　すがぬまこども園新園舎が開園する。
11月1日　足柄駅前に金太郎像を設置する。

令和 2019〜

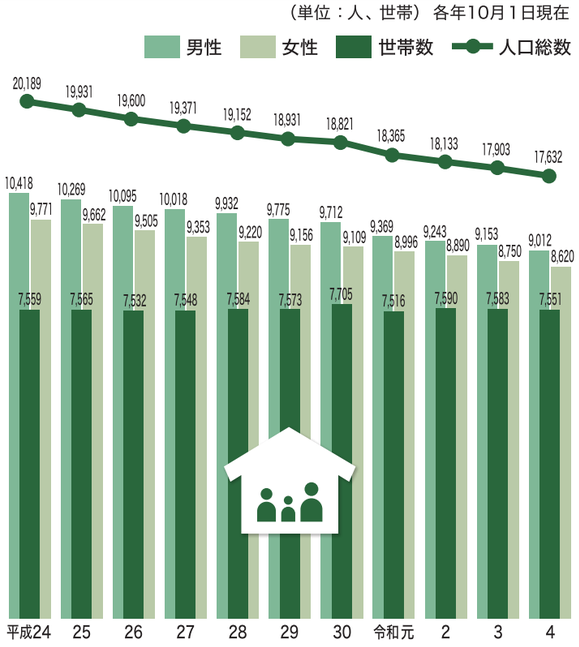

令和2年　第22回米・食味分析鑑定コンクール　国際大会in富士山を小山町で開催


令和3年　東京2020オリンピック聖火リレー


令和元年　台風19号による被害

■ 近10年の人口と世帯数の推移（住民登録）

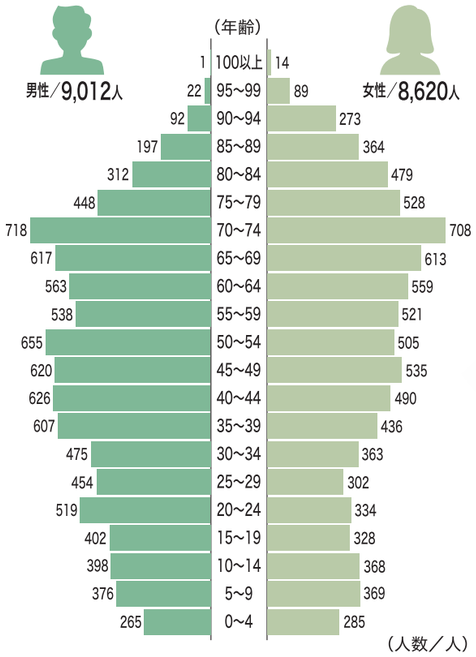
（単位：人、世帯） 各年10月1日現在



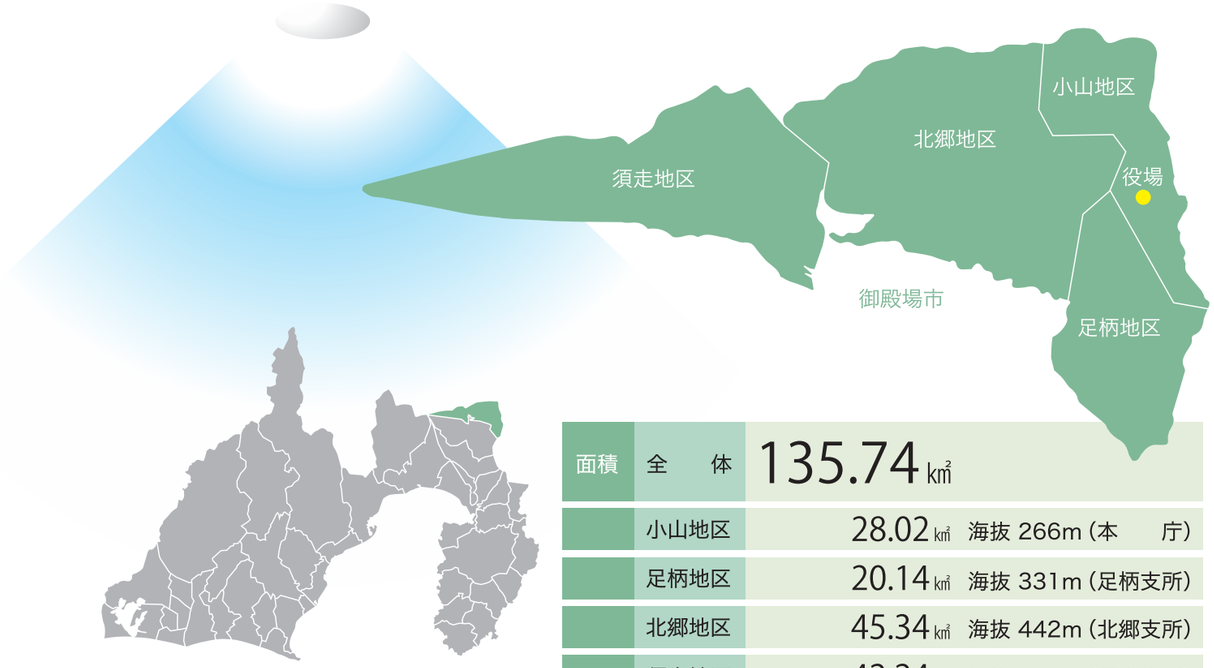
（注）住民基本台帳 富士学校は１人１世帯　　資料：住民課

■ 人口ピラミッド

令和4年10月1日現在



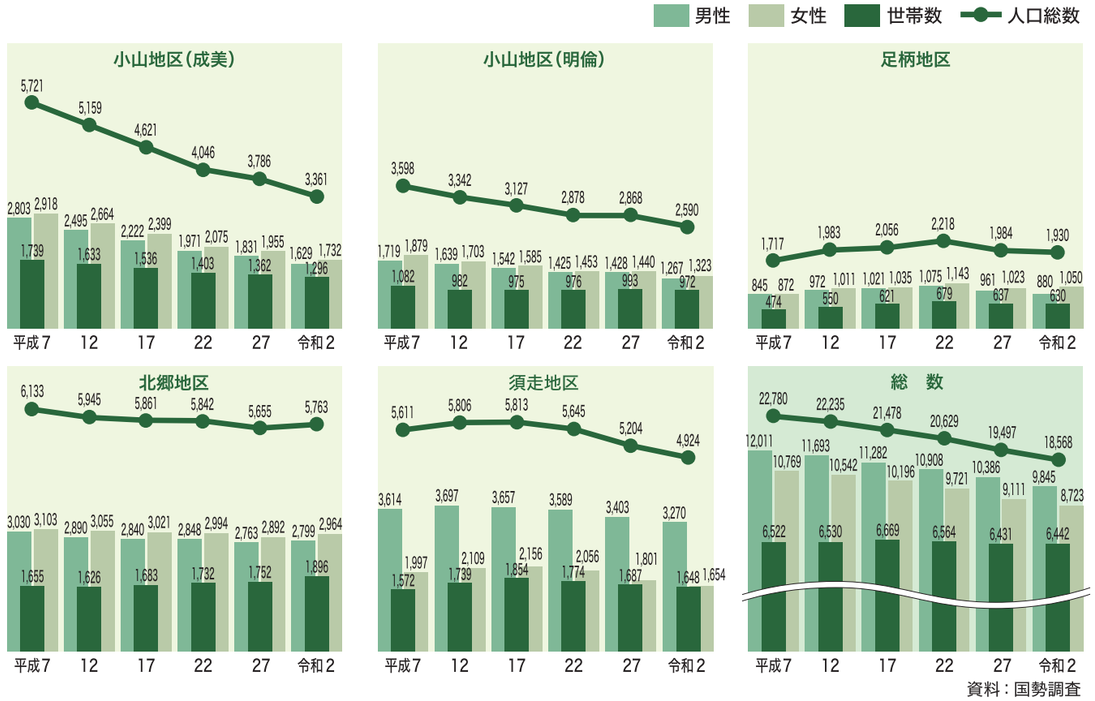
■ 位置・面積・アクセス



面積	全　体	135.74 ㎢
	小山地区	28.02 ㎢　海抜 266m（本　庁）
	足柄地区	20.14 ㎢　海抜 331m（足柄支所）
	北郷地区	45.34 ㎢　海抜 442m（北郷支所）
	須走地区	42.24 ㎢　海抜 786m（須走支所）
位　置	東経 138度59分、北緯 35度21分	
広ぼう	東西 26.04 km	南北 13.33 km

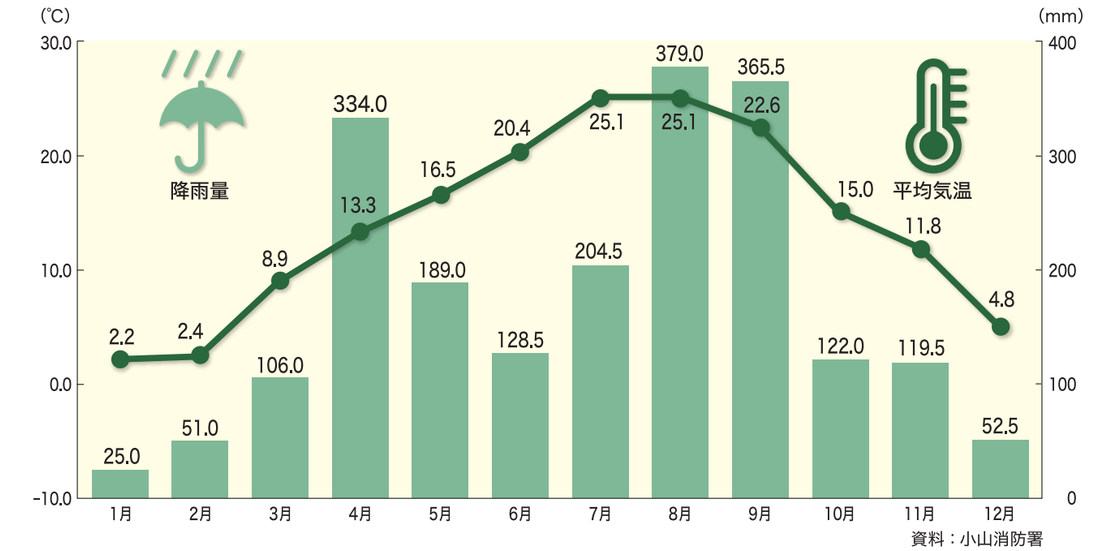
■ 5地区の人口と世帯数の推移（国勢調査）

（単位：人、世帯） 各年10月1日現在



資料：国勢調査

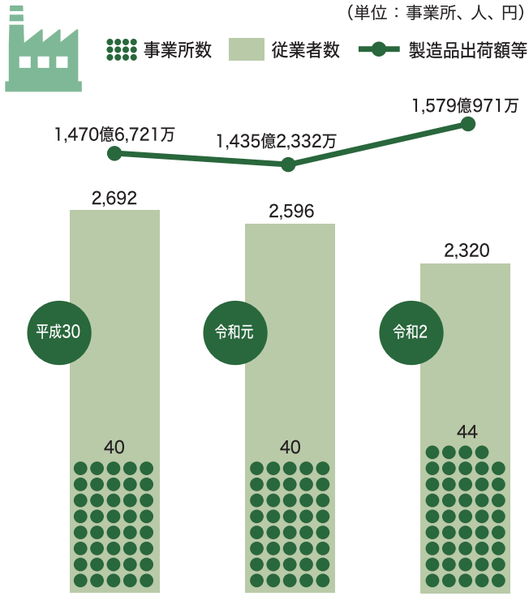
■ 平均気温と降雨量（令和4年）



資料：小山消防署

■ 工業の推移（事業所数／従業者数）

（単位：事業所、人、円）



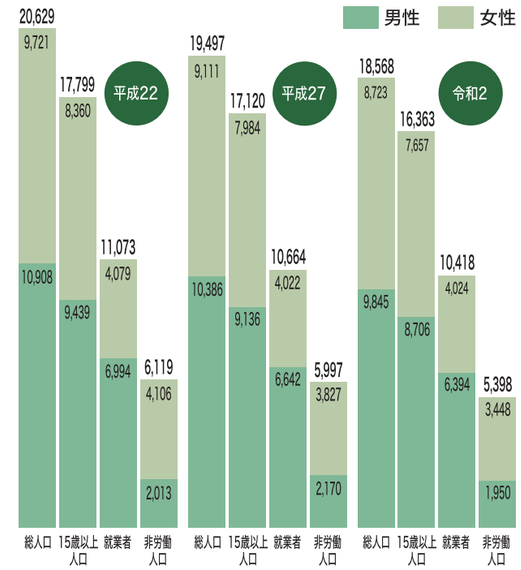
●製造品出荷額等については、表示年次1年間の数値
●事業所数、従業者数については、表示年次翌年6月1日現在

（工業統計、経済センサス活動調査）

■ 労働力人口

（単位：人） 各年10月1日現在

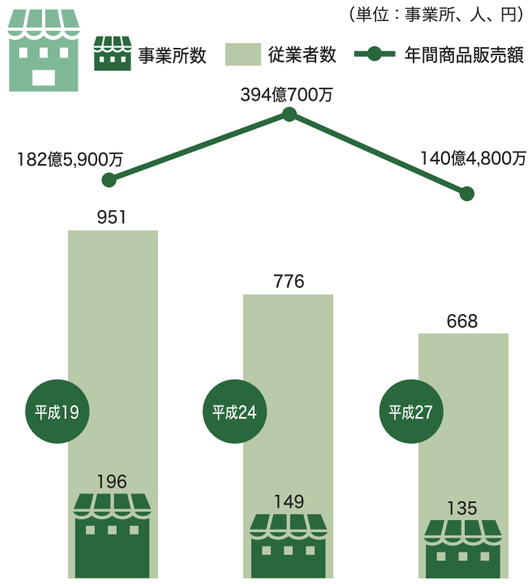
●総人口に対する15歳以上人口と就業、非労働人口



資料：国勢調査

■ 商業の推移（卸売／小売業）

（単位：事業所、人、円）

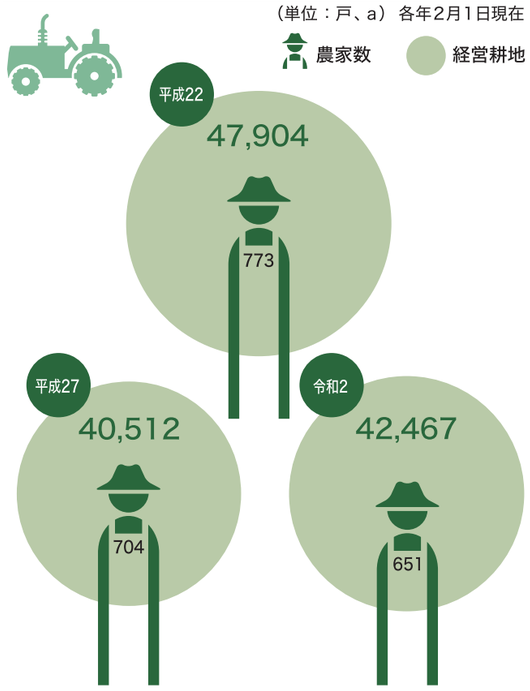


●平成19年の事業所数・従業者数は6月1日現在
年間商品販売額は前年4月1日～当年3月31日まで
●平成24年の事業所数・従業者数は2月1日現在
年間商品販売額は平成23年1年間の数値
●平成27年の事業所数・従業者数は平成28年6月1日現在
年間商品販売額は表示年次1年間の数値

（商業統計調査、経済センサス活動調査）

■ 農業の推移（農家数／経営耕地）

（単位：戸、a） 各年2月1日現在



（農林業センサス）

■ 町立こども園（幼・保）在籍数の推移

（単位：人） 各年度5月1日現在

幼稚園

年別合計
昭和50年／442
昭和60年／314
平成 7年／370
平成17年／371
平成27年／179
令和元年／129

小山
- 昭和50：68
- 60：66
- 平成 7：52
- 17：30

駿河
- 昭和50：80
- 60：31
- 平成 7：39
- 17：38

鷹山
- 27：47
- 令和 元：39

●平成22年4月1日：小山幼稚園と駿河幼稚園の統合により駿河小山幼稚園として開園

足柄
- 昭和50：55
- 60：37
- 平成 7：30
- 17：36
- 27：27
- 令和 元：6

●令和2年3月31日：足柄幼稚園廃園

北郷
- 昭和50：103
- 60：77
- 平成 7：117
- 17：82

●平成26年3月31日：北郷幼稚園廃止

須走
- 昭和50：136
- 60：103
- 平成 7：132
- 17：185
- 27：105
- 令和 元：84

保育園

年別合計
昭和50年／485
昭和60年／538
平成 7年／273
平成17年／322
平成27年／201

(旧)藤曲
- 昭和50：90
- 60：90
- 平成 7：30

●平成9年3月31日：藤曲保育園廃止

いきど
- 昭和50：88
- 60：99
- 平成 7：56
- 17：64
- 27：52

すがぬま
- 昭和50：110
- 60：110
- 平成 7：52
- 17：84
- 27：71

きたごう
- 昭和50：108
- 60：142
- 平成 7：80
- 17：92

●平成26年3月31日：きたごう保育園廃止
●平成26年4月 1日：北郷幼稚園と統合によりきたごうこども園開園

すばしり
- 昭和50：89
- 60：97
- 平成 7：55
- 17：82
- 27：78

こども園

年別合計
令和4年／398

こども園
- 令和 4 するがおやま：55
- 〃 すがぬま：84
- 〃 きたごう：135
- 〃 すばしり：124

●令和2年4月1日：幼稚園・保育園統合により町立こども園として開園
駿河小山幼稚園・いきど保育園→するがおやまこども園
すがぬま保育園→すがぬまこども園
須走幼稚園・すばしり保育園→すばしりこども園

■ 小・中学校在籍者数の推移

（単位：人） 各年度5月1日現在

小学校

年別合計
昭和50年／2011(4) 学級数／65(1)
昭和60年／2027(4) 学級数／61(1)
平成 7年／1625(5) 学級数／56(1)
平成17年／1337(5) 学級数／49(2)
平成27年／1001(13) 学級数／44(5)
令和４年／ 916(21) 学級数／44(6)

成美
- 昭和50：学級数：17 574
- 60：学級数：14 513
- 平成 7：学級数：12 385
- 17：学級数：10 261
- 27：学級数：6 165
- 令和 4：学級数：7(1) 139(2)

明倫
- 昭和50：学級数：13(1) 369(4)
- 60：学級数：12(1) 320(4)
- 平成 7：学級数：11(1) 261(5)
- 17：学級数：7(1) 177(2)
- 27：学級数：8(2) 147(3)
- 令和 4：学級数：7(1) 120(2)

足柄
- 昭和50：学級数：6 110
- 60：学級数：6 157
- 平成 7：学級数：6 128
- 17：学級数：6 130
- 27：学級数：6 102
- 令和 4：学級数：6 68

北郷
- 昭和50：学級数：12 392
- 60：学級数：16 577
- 平成 7：学級数：13 433
- 17：学級数：12 362
- 27：学級数：12(1) 303(2)
- 令和 4：学級数：14(2) 361(10)

須走
- 昭和50：学級数：17 566
- 60：学級数：13 460
- 平成 7：学級数：14 418
- 17：学級数：14(1) 407(3)
- 27：学級数：12(2) 284(8)
- 令和 4：学級数：10(2) 228(7)

( )は特別支援学級・児童数、内数

小山
- 昭和50：学級数：16(1) 585(11)
- 60：学級数：15(1) 571(6)
- 平成 7：学級数：13(1) 447(2)
- 17：学級数：10(1) 286(1)
- 平成27：学級数：9(2) 214(6)
- 令和 4：学級数：9(2) 182(5)

北郷
- 昭和50：学級数：6 193
- 60：学級数：8 296
- 平成 7：学級数：8 252
- 17：学級数：7 223
- 平成27：学級数：6(1) 158(2)
- 令和 4：学級数：7(1) 161(3)

須走
- 昭和50：学級数：6 201
- 60：学級数：6 173
- 平成 7：学級数：3 114
- 17：学級数：6(1) 135(2)
- 平成27：学級数：4(1) 110(3)
- 令和 4：学級数：6(2) 95(5)

中学校

年別合計
昭和50年／ 979(11) 学級数／28(1)
昭和60年／1040(6) 学級数／29(1)
平成 7年／ 813(2) 学級数／24(1)
平成17年／ 644(3) 学級数／23(2)
平成27年／ 482(11) 学級数／19(4)
令和４年／ 438(13) 学級数／22(5)

( )は特別支援学級・生徒数、内数

町章



一般公募により、昭和45年1月1日に制定しました。小山町のイニシャル“Ｏ”を基本にして、その頂点に町のシンボル富士山を配し、図案化したものです。富士、箱根、丹沢の連峰に囲まれた緑のオアシスを簡潔に表現し、その中に町民の力強い団結、希望、勇気を表しています。

町の木　ふじ桜

富士山麓に多く自生し、樹高は3～6mの小喬木で、小さな花をつけます。

花色は淡紅色で、ガクが赤味を帯びています。まめ桜とも呼ばれ、品種は多く葉が小さくて若木でもよく花をつけるので、盆栽に適しています。4月～6月にかけ、葉が伸びる前、一斉に開花します。



町の鳥　うぐいす

「ホーホケキョ」の鳴き声で知られる、春を告げる代表的な鳥で梅の木にとまっている姿は昔から絵の題材になっています。

「ケキョ」の部分が富士山を境に西に行けば長く、北に行けば短くなるといわれ、中部地方の鳴き声がもっともよいといわれています。特に町内では須走地区に多く生息しています。



町の花　菜の花

10月ごろ、高うねにした田んぼに種をまき、富士山の温かく、きれいな伏流水で冬を越し、3月～4月に黄色い十字花を咲かせます。花はアブラナに似てやや小形です。また開花する前の2月～3月、柔らかい茎を摘み、塩漬けにして地域の特産物、水掛菜（とう菜）として各地に出荷しています。



歴代町長

歴代	氏名	就任	退任
1	湯山寿介	大正 元年10月16日	大正 5年10月15日
2	湯山剛平	〃 5年10月16日	〃 9年10月15日
3	室伏完	〃 9年10月18日	〃 13年10月17日
4	室伏完	〃 13年10月18日	〃 14年 3月17日
5	湯山剛平	〃 14年10月12日	昭和 4年10月11日
6	湯山正平	昭和 4年11月 8日	〃 8年11月 7日
7	髙橋文治郎	〃 8年11月 8日	〃 12年11月 7日
8	岩田幸恵	〃 12年11月 8日	〃 13年 9月11日
9	髙橋文治郎	〃 13年 9月20日	〃 16年 1月16日
10	室伏武	〃 16年 2月 3日	〃 20年 2月 2日
11	室伏武	〃 20年 2月 3日	〃 21年11月24日
12	湯山正平	〃 22年 4月 5日	〃 26年 4月 4日
13	湯山正平	〃 26年 4月23日	〃 30年 4月22日
14	湯山正平	〃 30年 5月 1日	〃 34年 4月30日
15	鈴木繁	〃 34年 5月 1日	〃 38年 4月30日
16	神成昇造	〃 38年 5月 1日	〃 42年 4月30日
17	神成昇造	〃 42年 5月 1日	〃 46年 4月30日
18	湯山勝人	〃 46年 5月 1日	〃 50年 4月30日
19	湯山勝人	〃 50年 5月 1日	〃 54年 4月30日
20	湯山勝人	〃 54年 5月 1日	〃 58年 4月30日
21	髙橋春雄	〃 58年 5月 1日	〃 62年 4月30日
22	田代和男	〃 62年 5月 1日	平成 3年 4月30日
23	田代和男	平成 3年 5月 1日	〃 7年 4月30日
24	長田央	〃 7年 5月 1日	〃 11年4月30日
25	長田央	〃 11年 5月 1日	〃 15年4月30日
26	長田央	〃 15年 5月 1日	〃 19年4月30日
27	髙橋宏	〃 19年 5月 1日	〃 23年4月30日
28	込山正秀	〃 23年 5月 1日	〃 27年4月30日
29	込山正秀	〃 27年 5月 1日	〃 31年4月30日
30	池谷晴一	令和 元年 5月 1日	

富士のあるまち　おやま

町制施行110周年　小山町町勢要覧

発　　行：静岡県小山町
編　　集：企画総務部地域振興課
発 行 日：令和５年３月
印　　刷：ヌビス LLC
表紙写真：赤木　和敏